

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察注意報について

令和 2 年度病害虫発生予察注意報第 7 号を公表したので送付します。

令和 2 年度病害虫発生予察注意報第 7 号

- 1 作物名 さとうきび
- 2 害虫名 メイチュウ類(カンシャシクイハマキ、イネヨトウ)
- 3 発生地域 宮古群島
- 4 注意報発令の根拠

10 月中旬の調査結果は、新植夏植ほ場の芯枯茎率は宮古島・伊良部島 2.7%「平年値よりやや多」(前年 0.3%、平年 0.7%、図 1)、多良間島 1.6%(前年 0.4%、平年値なし)であった。芯枯茎切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫は、カンシャシクイハマキ (69.2%)、イネヨトウ (30.8%) であった。カンシャシクイハマキおよびイネヨトウの 10 月の合成性フェロモントラップ誘殺虫数(虫数/トラップ/日)は、それぞれ宮古島 25.5 頭(前年 5.3 頭、平年 4.7 頭)、1.7 頭(前年 2.8 頭、平年 1.7 頭)、多良間島 1.4 頭(前年 5.0 頭、平年 4.1 頭)、3.9 頭(前年 0.4 頭、平年 0.3 頭)であった。

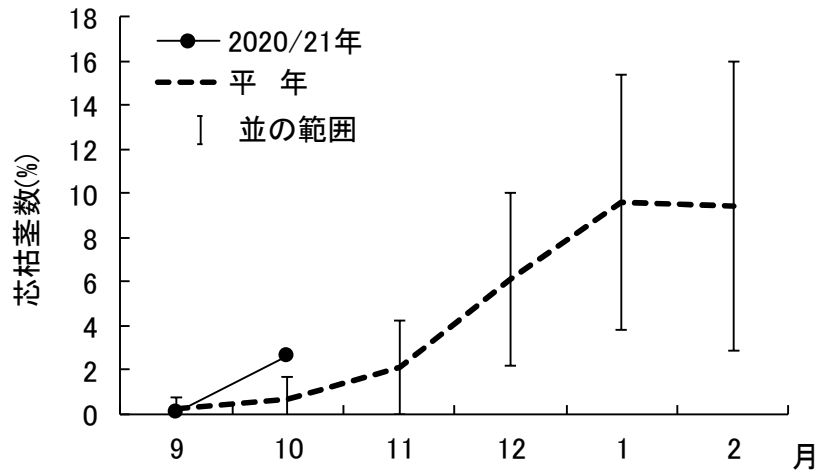


図 1 宮古島・伊良部島におけるメイチュウ類(芯枯茎)の発生推移

5 発生生態および被害

- (1) 本県では周年発生する。
- (2) ふ化幼虫は葉鞘の内側を下降して節部の芽や根帯から食入し生長点を加害し芯枯れを起こす(図 3、4、5)。
- (3) カンシャシクイハマキ被害はほ場に散在的に発生し、イネヨトウ被害は集中的に発生し坪枯を起こす。

6 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場及び周辺の除草を徹底する。
- (2) 発芽揃期から有効分げつ期の芯枯れ防止をねらい、培土時に食入初期の幼虫を対象にした薬剤防除を行う。
- (3) 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液が浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- (4) 薬剤防除後、2～3週間をおいて再度防除を行うことで防除効果が高まる。
- (5) 被害の多い地域では薬剤による一斉防除を行う。



図2 カンシャシクイハマキ幼虫



図3 イネヨトウ幼虫



図4 芯枯茎